



## 日本は本当に 原発を動かさないと 電力不足になってしまうの?!

ごみ・環境ビジョン21 会員  
小泉 啓子 (小田原市)

昨年夏あたりから、テレビを見ているとやたらと節電という言葉が飛び交い、NHKはスタジオの明かりを落としているというし、日本は本当に原発を動かさないといけないぐらい電力が不足しているのかな?とっていました。

ところが、昨年9月発行のごみっと・SUNの田口理穂さんの「ドイツのエコあれこれ」を読むと、ドイツはロシアからの天然ガス輸入が打ち切られて深刻なエネルギー不足に直面しているのに、現在動いている3基の原発も2022年12月末にはすべて停止する…と書いてあるではありませんか!

「えっ? どうして日本より大変なドイツが原発を停止することができるの?」と思い、ネットで「ドイツの原発」で検索しました。すると、JETROのビジネス短信2022年10月22日にも「ドイツ政府は稼働中の全原発3基を2023年4月まで稼働延長と決定」と書いてあります。これは新たに核燃料を調達することはせず、今ある燃料だけを節約しながら利用して、この冬場を乗り切るということだそうです。そしてその後はもう再延長はしない、と。

日本は原発を新設するとまで言っているのに、ドイツは来年の4月に停止して本当に大丈夫なのでしょうか? そのことを「ごみっと・SUN」の編集部に伝えると、田口理穂さんにつないでくれて、理穂さんからのメールを転送してくれました。

理穂さんからのメールです。

=====

「ドイツで原発を止めてもエネルギーは足りるのか」とのご質問かと思えます。記事はその通りです。今の経済・気候保護大臣ハーベックは緑の党に所属していますが、ガスが足りないのでアラブ諸国から石油を買ったり、水素や再エネに力を入れています。省エネについて啓蒙もしています。この件についてまたごみっとさんと書こうかなと思っています。

それにしても「日本では電力が足りなくなるからと、簡単に原発再稼働、その上新設まで報じられています」とのことですが、私は「そのように信じ込まされている」のだな…と思いました。再エネとか他の方法でエネルギーをまかなうこともできるのに、と思います。

=====

そして、理穂さんが「ちょうどそうした内容の講演会があるので、ぜひ聴いてみてください」と、オンライン学習会のお誘いをいただきました。

### 『12.8 オンライン被ばく学習会

岸田政権による原子力政策の転換をどうみるか

講師：大島堅一さん(龍谷大学教授)』

このメールを私が見たのがちょうど12月8日。ぎりぎり間に合い、まさに「本当に日本の電力はひっ迫しているのか? 原発を再稼働すれば解決するのか?」という私の疑問に答えてくれる内容の講演を聴くことができました。その後、ごみかんの井上さんがyoutubeで常時公開されていることを教えていただきました。20221208「オンライン被爆学習会」で検索して、ぜひ見てください。

この学習会でわかったことは「日本の電力は足りている」ということです。足りなくなるかもしれないのは10年に1度の厳寒日・猛暑日で、これももって対策を立てれば十分対応できるのです。

また「電力のことで何かあると必ず原発に結びつけ、原発が問題を解決してくれると言いますが、それは違う」ということ。電気料金の値上げも、あたかも原発を停止しているせいと言うがそれもウソ。単に化石燃料が値上がりしているから。

国民は電気が「停まる」と言われると思考停止してしまい「再稼働もやむなし」「次世代炉の開発、建設もしょうがない」と思ってしまうが、きちんと情報を得てほしい、と大島さんは力説する。

原発を今から新增設すると建設期間は10年、20年かかり、60年以上運転するとなると100年の事業になってしまう。つまり22世紀、23世紀の未来をも縛るような話。そんな重要なことを、政府は推進派ばかりで固めた原子力小委員会(経済産業省の有識者会議)でたった3カ月で決めてしまったという。

さらには、原発の廃炉や維持費など、本当は電力会社が負担すべきものが全部、国民負担になっているし、送電線は原発優先で、これでは再生エネルギーを増やすことができない。これでは3.11前の原子力村そのものではないか!

本当にこんなことを繰り返して日本は大丈夫だろうかと思いました。

小泉さんの「ドイツは来年の4月に停止して本当に大丈夫なの?」という問いに対して、今号では、理穂さんがさらに詳しくドイツの様子を書いてくれました。14pをどうぞ!